



二子玉川

学校だより 第9号
令和8年1月8日
世田谷区立二子玉川小学校
校長 今福 真和

楽しく遊ぶ

校長 今福 真和

新年あけましておめでとうございます。今年は午年です。馬が力強く駆け抜ける姿から、「前進」「情熱」「行動力」といった明るくエネルギーに満ちた一年になると言われています。今年も二子玉川小学校の子どもたち一人一人が、エネルギーにあふれ、健やかに成長してほしいと願っています。

子どもたちも冬休みを楽しく過ごしたことでしょう。お正月の遊びといえば、凧揚げやコマ回し、すみやトランプなどを楽しんだ記憶がありますが、現代の子どもたちはどうでしょうか。学校では中休みや昼休みに、校庭や体育館で元気いっぱいに遊んでいます。学級レクリエーションや学期末のお楽しみ会でも、クラス全員で遊ぶ姿が見られます。遊びは全身を使うため体力がつきますし、ルールを守ることや、意見の違いに折り合いをつけることも学びます。子どもたちにとって遊びの場は、大切な学びの場なのです。

2学期末のお楽しみ会では、ある学級がドッジボールをしていました。ゲームが始まると、ドッジボールが得意な子や投げる力のある子が次々とボールを投げていきます。外野にボールが渡ると、「横から投げよう」と声を掛け合い、後に転がってもボールを失わないよう横に回って投げ合います。今度は「上から、上から」と声がかかり、内野の子の頭上をループバスで通してチャンスをうかがっています。力を込めて投げたボールを相手が見事にキャッチすると、仲間から拍手と歓声が上がります。しばらくすると両チームとも、ボールを譲り合いながら投げるようになり、逃げ回っていた子にも「投げなよ」と優しい声がかかります。一進一退の攻防の中でも、子どもたちは笑顔と歓声に包まれ、黙々とドッジボールに熱中していました。審判を務めながら見守る先生も、終始笑顔でした。

前回は学習における「探究的」「協働的」な学びを紹介しましたが、子どもたちの遊びにも、まさにその姿が見られます。勝つための作戦を考えて声を掛け合い、うまくいかなければ次々にやり方を変えます。歓声や拍手で仲間を励まし、投げることが得意でない子への優しさも見られます。そして、最後まで決してあきらめません。

中休みや昼休みには、寒い冬でも多くの子どもたちが校庭に出て元気に遊びます。鬼ごっこ、ドッジボール、鉄棒、のぼり棒、なわとびなど、遊びはさまざまです。鉄棒やなわとびでは互いにアドバイスし合う姿が見られます。のぼり棒や運んで遊ぶ1年生は、上手な子の動きをよく観察しています。途中でうまくいかなくても、何度も挑戦し続けます。できるようになると友達と一緒に喜び、達成感を味わい、自信をつけていきます。そして何より、太陽の光を浴びながら満面の笑顔で遊ぶ子どもたちはエネルギーにあふれ、心も体もすっきりしています。子どもたちにとって「遊び」は学びの原点であり、とても大切な時間です。

校庭に立っていると、多くの子どもたちの声が響き渡ります。挨拶をしたり、話しかけてきたり、手を振ってくれたりします。私にとっても、子どもたちが遊ぶ姿を見る時間は、幸せと平和を感じるひとときなのです。